

アジア開発銀行第 40 回年次総会が閉幕

【京都、日本(2007年5月7日)】アジア開発銀行(ADB)の第40回年次総会は7日閉幕した。同日行われた最終総務会議(ビジネスセッション)で黒田東彦^{はるひこ}総裁は閉会の挨拶を行い、「記念すべき内容であり、成功裏に終わった」と述べ、今次総会は、変貌するアジアに対しADBがいかに進化しうるかを考える上で、価値ある洞察が得られたとして評価。「総会中開催された様々な行事や討議を見ると、ADBが創設者のビジョンを達成するために進歩ある道のりを歩んできたことが示されているが、同時に、この先に待ち構える課題や機会についても認識を新たにしたい」と述べた。

総会議長をつとめた尾身幸次財務大臣も、閉会の挨拶で見解を表明、貧困削減と気候変動などの環境問題は、アジアがとりくむべき喫緊の課題とした上で、「アジアが課題を克服して世界の他地域のモデルとなるためにも、ADBは地域の開発銀行として引き続きその重要な任務を遂行すべきとの点で、加盟国総務の意見は一致した」と述べた。

黒田総裁はまた、アジアの将来的な方向と課題をふまえてADBの長期的役割を提言するとの目的で昨年自ら招集した賢人会議の報告書について、各総務より評価されたと指摘。「賢人会議の報告書をめぐる議論は、ADBが、貧困削減に軸足を置きつつも新しい課題にも対応できるようにならなければならないことが差し迫っていることの証左だ」とし、ADB内外の協議を通じて2015年までの長期戦略枠組みを見直していく上で、重要なインプットをもたらすだろうと述べた。

また、アジアがよりクリーンで持続可能な開発をめざすことに加盟国総務より支持とコミットが寄せられたことについても、同総裁は満足の意を表明し、「アジアの成長は持続可能であるべきとの点で合意がみられた。アジアの成長は温室効果ガス排出の増大につながっており、クリーンで効率的なエネルギー消費と、代替エネルギー資源に向けた協力と投資を強化する必要性についても、合意があった」と述べた。

一方、地域協力・統合戦略についても、支持が得られた。黒田総裁は、「開発の遅れた国が世界経済の恩恵を得られるよう、地域協力と統合の面でより積極的な役割を果たすことがコミットされた」と述べている。

4日間にわたり京都で行われた今回の年次総会では、各国政府関係者や投資家、学識者、報道関係者、及び国際機関やNGO代表など2500人以上が参加。年次総会は、各加盟国がADBの管理、財務及び総務の運営方針についてガイダンスを与える機会である。会期中は総務会議(ビジネスセッション)が計3回行われたほか、テーマの異なるセミナーも計6回開催された(クリーンエネルギー、通貨危機10年後のアジア、進む高齢化、転換期の世界経済、地域協力と統合、アジアの都市化)。ADBのエネルギー戦略については、シビルソサエティ代表を交えたオープンフォーラムが開かれ、黒田総裁やADB上級幹部も出席し、ADBのセーフガード改訂について討議が行われた。

次回第41回年次総会は、2008年5月5日(月)～6日(火)の日程で、スペイン・マドリードにて開催予定。